

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	畜産課長 川津章弘	電話番号	0852-22-5132
----------	-----------	------	--------------

事務事業の名称	肉用牛低コスト生産対策事業		
目的	(1) 対象	畜産農家	
	(2) 意図	和牛繁殖経営における低コスト生産技術・体制の確立・普及を進めることによって、経営の安定化と飼料自給率の向上を図る。また、マザーステーション等の集約畜産施設の設置を進めることで、畜産農家の規模拡大や労力低減を図る。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・放牧拡大に向けた実証展示及び放牧実践支援体制の充実を図る。また、繁殖和牛の低コスト生産や省力化の取組のモデル実証を行い普及啓発を図る。 ・繁殖和牛経営体の新たな担い手として集落営農組織等による省力・低コストな放牧による和牛繁殖を推進する。 ・畜産農家の規模拡大や飼養管理の労力低減を図るため、集約畜産施設の設置や運営に係る技術者の技術力向上を図る。 (肉用牛低コスト生産対策事業、農業・農村振興対策事業)		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 放牧頭数	目標値		3,795.0	3,860.0	3,930.0	4,000.0	頭数
		取組目標値						
	式・定義 当該年度における放牧頭数	実績値	3,735.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名 飼料作付面積	目標値		3,560.0	3,610.0	3,660.0	3,700.0	ha
		取組目標値						
	式・定義 当該年度の飼料作付面積	実績値	3,360.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	25,405	24,597
うち一般財源(千円)	25,405	24,597

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

<ul style="list-style-type: none"> ・放牧頭数は、直近1年間で83頭増加している(H26:3,652⇒H27:3,735) ・放牧に取り組み集落営農等の地区数は、24地区(うち、牛を自ら所有する地区数:7地区) ・飼料米やWCS用稲の栽培面積は、H27年度に1,593haに達している(飼料米:1,104、WCS用稲:489ha) ・集約畜産施設は、3か所(安来市、雲南市、奥出雲町)で整備
--

6. 成果があったこと(改善されたこと)

<ul style="list-style-type: none"> ・お試し放牧を行う、集落営農組織が増加しており、放牧畜産経営に取り組み機運が高まりつつある。 ・事業の活用により、放牧牛の導入に結びついた集落営農組織等がある(目標30頭→実績33頭)。 ・WCS用稲の生産面積とコントラクター組織の受託面積が拡大している。 ・国交付金の効果もあり、飼料米の生産面積が拡大している。 ・2か所の集約畜産施設の整備に対して支援を行い、子牛などの受け入れを開始。畜産農家から高い関心を集めている。
--

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お試し放牧について、県のレンタル放牧牛では、対応できない件数の要望が出ている ・もと牛価格の高騰から、集落営農組織等が放牧牛を導入しにくい状況になっている ・集落内で、牛の飼養管理技術をもつ者が不足している ・WCS用稲及び飼料米ともに、畜産農家の需要が頭打ちになっている ・計画地域における集約畜産施設の新規整備 <p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レンタル放牧牛が不足している ・全国的に子牛頭数が減少していることから、もと牛価格が高騰 ・牛を飼った経験がある人がいない集落が多くある ・需要(家畜頭数)よりも、WCS用稲や飼料米の生産が上回る地域がある ・施設整備には多額の費用が必要 <p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間(畜産農家)による放牧牛をレンタルする仕組みが必要 ・放牧牛を導入する集落営農組織等に対して、負担軽減のための支援が必要 ・放牧管理者を育成するための研修機能や技術を補完する集約的施設(マザーステーションやキャトルステーション)の整備が必要 ・畜産農家における、WCS用稲や飼料米の利用を拡大するための方策の検討が必要

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

<ul style="list-style-type: none"> ・水田の有効活用による低コスト生産推進と新たな畜産の担い手育成、集落営農の経営多角化の観点から、集落営農組織等での放牧実施を支援する ・放牧を利用した和牛繁殖経営に取り組み集落営農組織等に対して、繁殖牛の導入や施設整備への支援を行うとともに、飼養管理技術の不足解消のため、集約畜産施設整備や同施設の技術者育成に向けた支援を行う ・稲WCSや飼料米の広域的な流通による需給マッチングを図るほか、利用できる農家を拡大する方策として、TMRセンター設置を検討する
--

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)

--